

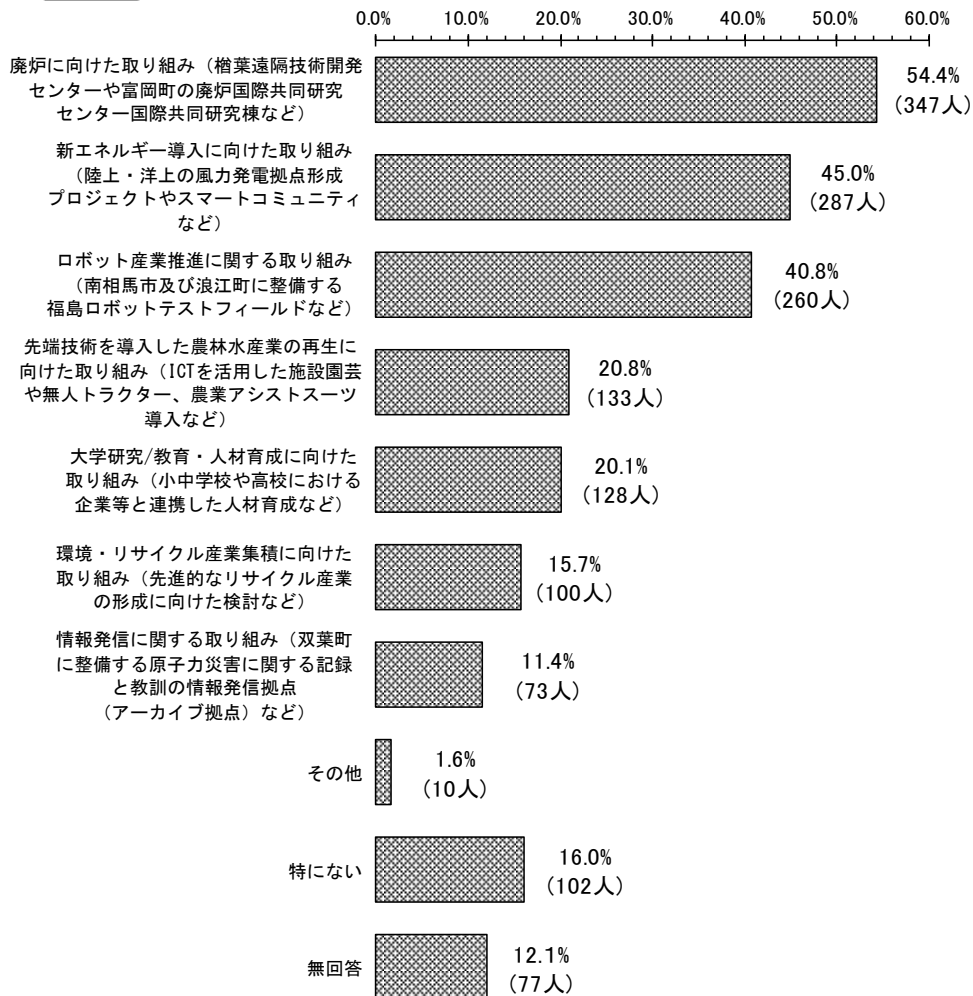
# 1. 福島イノベーション・コースト構想について

## (1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組み

問1 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取り組みを知っていますか。

あてはまるものはいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体  
(n=638)



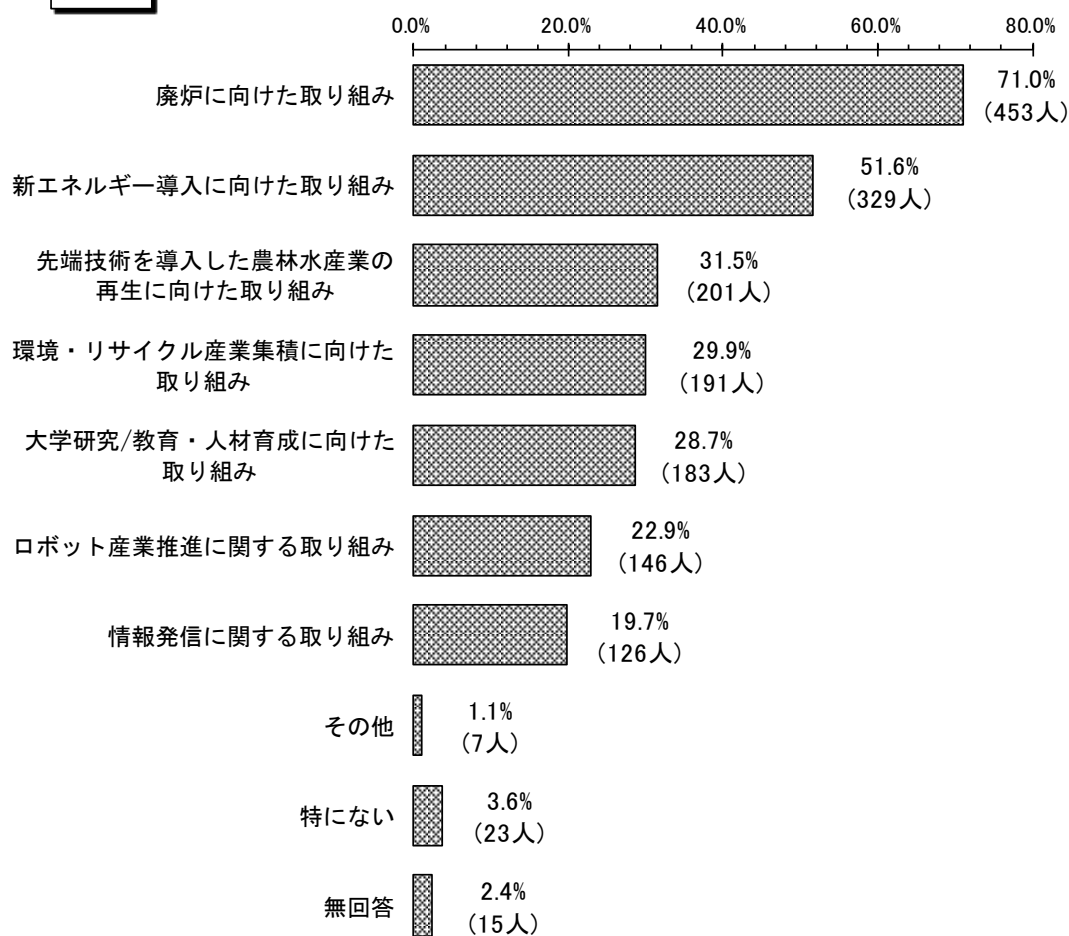
福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組みは「廃炉に向けた取り組み(櫛葉遠隔技術開発センターや富岡町の廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟など)」(54.4%)が最も多く、5割強となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取り組み(陸上・洋上の風力発電拠点形成プロジェクトやスマートコミュニティなど)」(45.0%)と「ロボット産業推進に関する取り組み(南相馬市及び浪江町に整備する福島ロボットテストフィールドなど)」(40.8%)が4割台となっている。

## (2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組み

問2 今後、福島イノベーション・コースト構想を着実に推進し、県内全域の復興・創生にもつなげていくために、県はどのような取り組みを強化していけばよいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体  
(n=638)

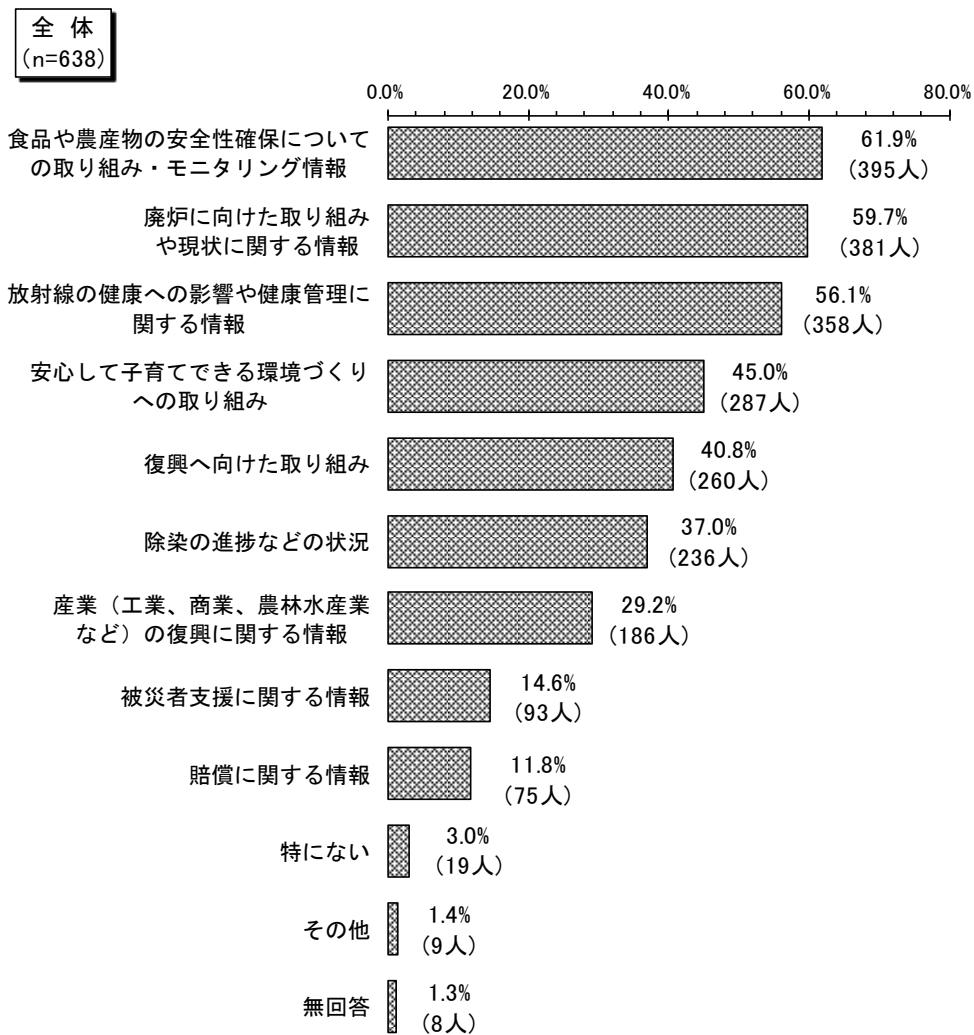


福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組みについては、「廃炉に向けた取り組み」(71.0%)が最も多く、約7割となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取り組み」(51.6%)が5割台、「先端技術を導入した農林水産業の再生に向けた取り組み」(31.5%)が3割台、「環境・リサイクル産業集積に向けた取り組み」(29.9%)、「大学研究/教育・人材育成に向けた取り組み」(28.7%)と「ロボット産業推進に関する取り組み」(22.9%)が2割台となっている。

## 2. 復興等に関する情報発信について

### (1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問3 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

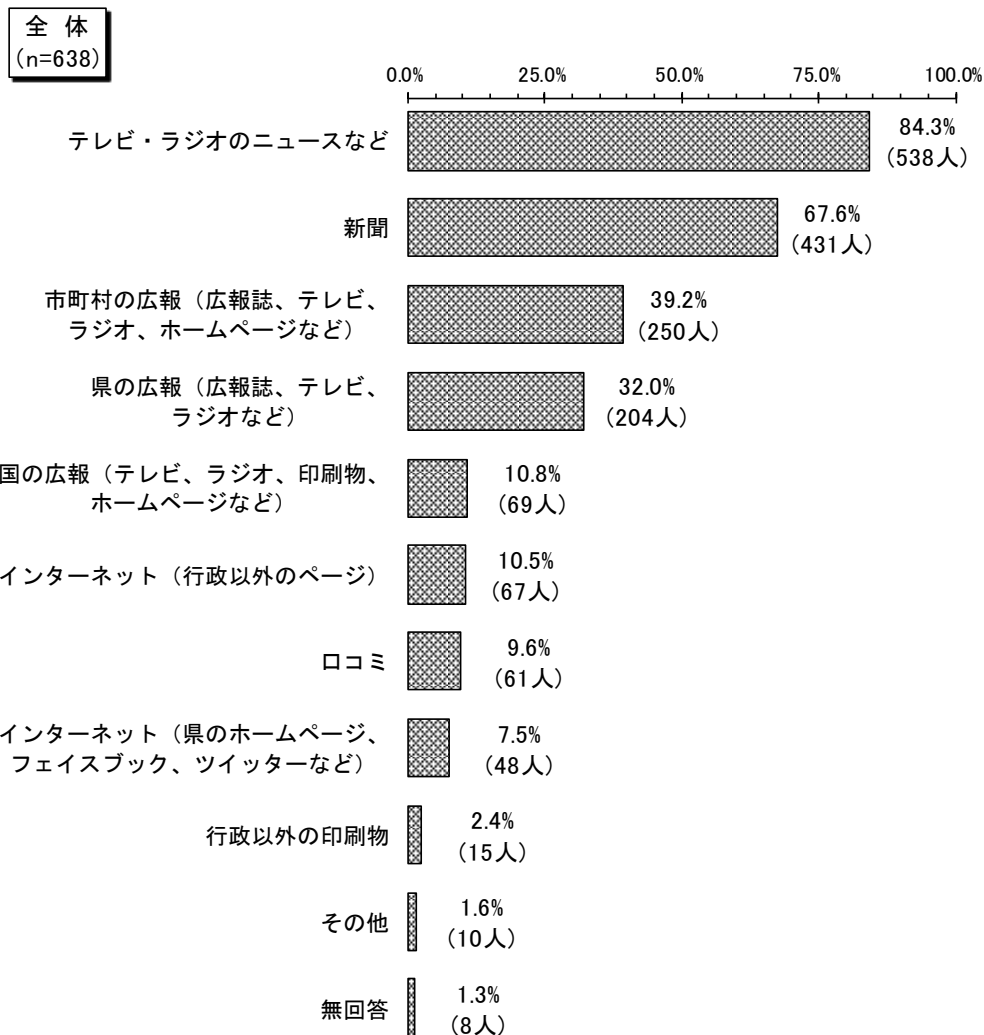


震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取り組み・モニタリング情報」(61.9%)と「廃炉に向けた取り組みや現状に関する情報」(59.7%)が多く、6割前後となっている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(56.1%)が5割台、「安心して子育てできる環境づくりへの取り組み」(45.0%)と「復興へ向けた取り組み」(40.8%)が4割台、「除染の進捗などの状況」(37.0%)が3割台、「産業(工業、商業、農林水産業など)の復興に関する情報」(29.2%)が約3割で続いている。

## (2) 復興状況や新しい取り組みに関する情報の入手先

問4 本県の復興の状況や新しい取り組みに関する情報については主に何で入手していますか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)



復興の状況や新しい取り組みに関する情報の入手先は、「テレビ、ラジオのニュースなど」(84.3%)が最も多く、8割強となっている。以下、「新聞」(67.6%)が6割台、「市町村の広報(広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど)」(39.2%)と「県の広報(広報誌、テレビ、ラジオなど)」(32.0%)が3割台、「国の広報(テレビ、ラジオ、印刷物、ホームページなど)」(10.8%)、「インターネット(行政以外のページ)」(10.5%)と「ロコミ」(9.6%)が約1割となっている。

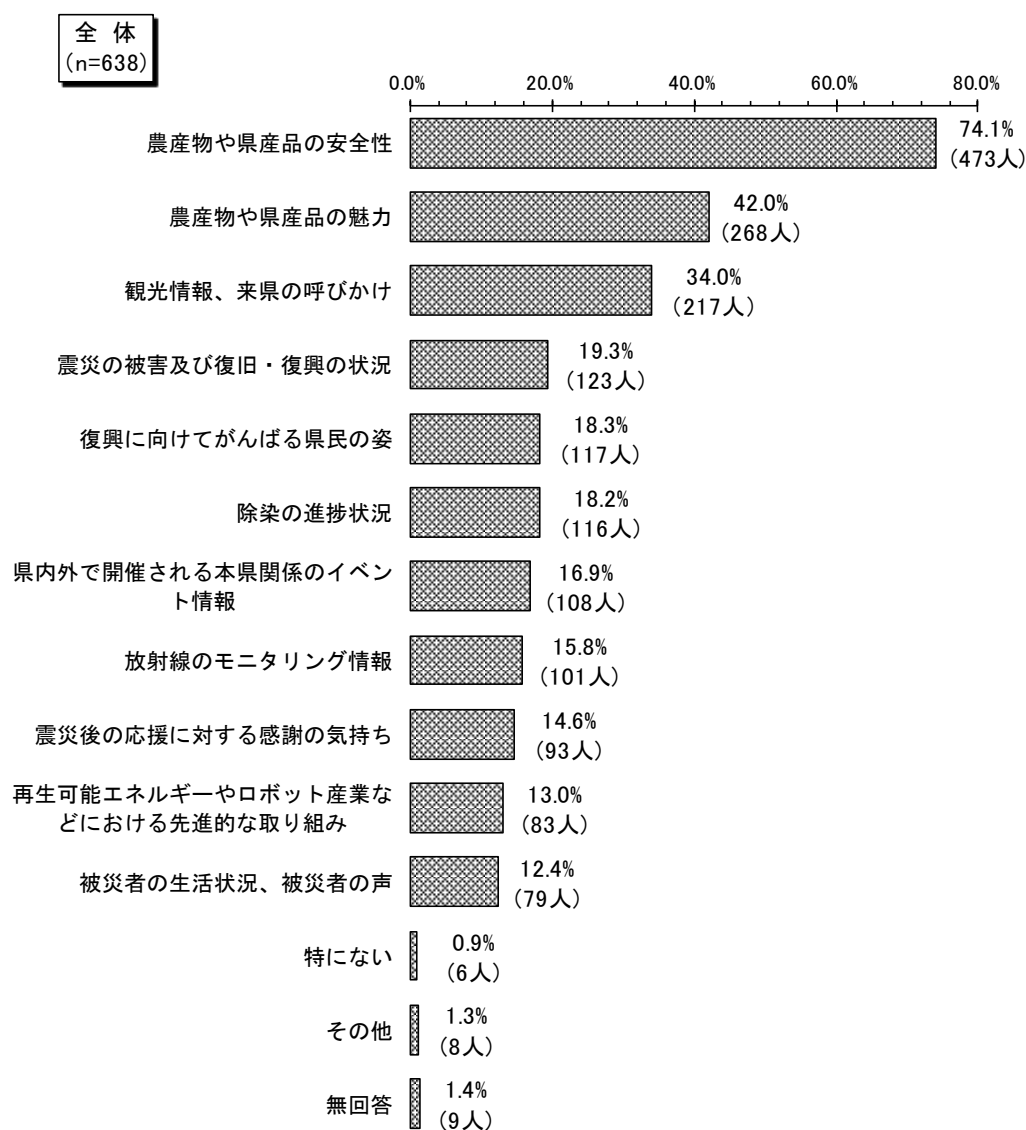


県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（53.2%）が最も多く、5割台となっている。以下、〈広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（41.1%）が4割台、〈テレビ『キビタンGO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（24.3%）が2割台、〈テレビ『Let's チャレンジ! ふくしま（福島放送：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（19.3%）、〈ラジオ『キビタンスマイル（ふくしまFM：毎週月～金曜日 17:30～17:35）』〉（11.4%）と〈インターネット『県ホームページ』〉（11.1%）が1割台となっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（24.6%）が2割強で最も高くなっている。次いで、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（20.8%）が約2割で続いている。以下、〈テレビ『キビタンGO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（17.8%）、〈テレビ『Let's チャレンジ! ふくしま（福島放送：毎週金曜日 19:56～20:00）』〉（16.3%）となっている。

#### (4) 県外に発信すべき内容

問6 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

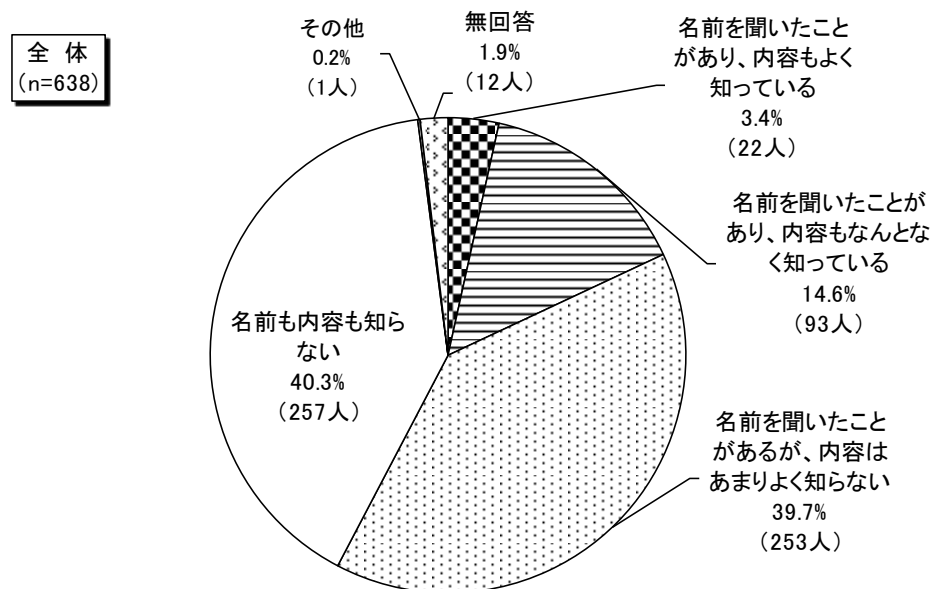


福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(74.1%)が最も多く、7割台となっている。以下、「農産物や県産品の魅力」(42.0%)が4割台、「観光情報、来県の呼びかけ」(34.0%)が3割台、「震災の被害及び復旧・復興の状況」(19.3%)、「復興に向けてがんばる県民の姿」(18.3%)、「除染の進捗状況」(18.2%)、「県内外で開催される本県関係のイベント情報」(16.9%)、「放射線のモニタリング情報」(15.8%)、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(14.6%)、「再生可能エネルギーやロボット産業などにおける先進的な取り組み」(13.0%)、「被災者の生活状況、被災者の声」(12.4%)が1割台で続いている。

### 3. チャレンジふくしま県民活動について

#### (1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

問7 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動を知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

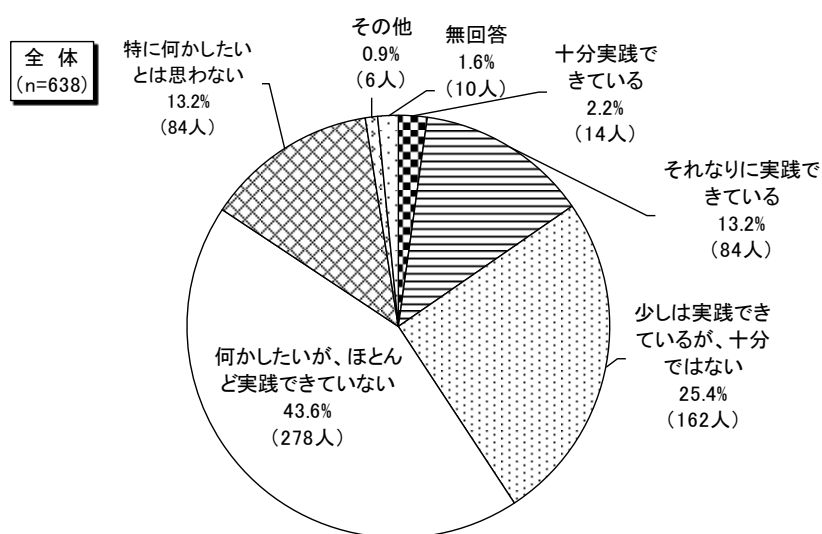


チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「名前も内容も知らない」(40.3%)と「名前を聞いたことがあるが、内容はあまりよく知らない」(39.7%)が約4割となっている。「名前を聞いたことがあり、内容もなんとなく知っている」が14.6%、「名前を聞いたことがあり、内容もよく知っている」が3.4%となっている。



## (2) 心身の健康づくりに対する実践状況

問8 運動や文化活動など、最近の心身の健康づくりに関する実践状況について、最も当てはまるもの1つに○をつけてください。



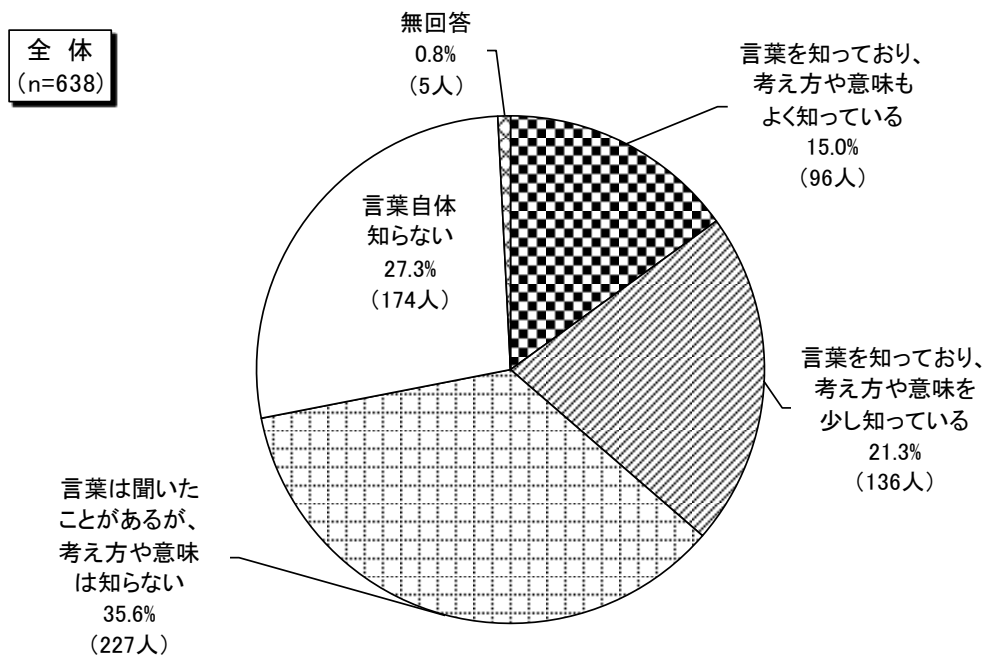
心身の健康づくりに対する実践状況については、「何かしたいが、ほとんど実践できていない」(43.6%)が最も多く、4割台となっている。以下、「少しは実践できているが、十分ではない」(25.4%)、「それなりに実践できている」(13.2%)、「十分に実践できている」(2.2%)となっている。

一方、「特に何かしたいとは思わない」が13.2%となっている。

## 4. ユニバーサルデザインについて

### (1) 言葉の認知状況

問9 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉について知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

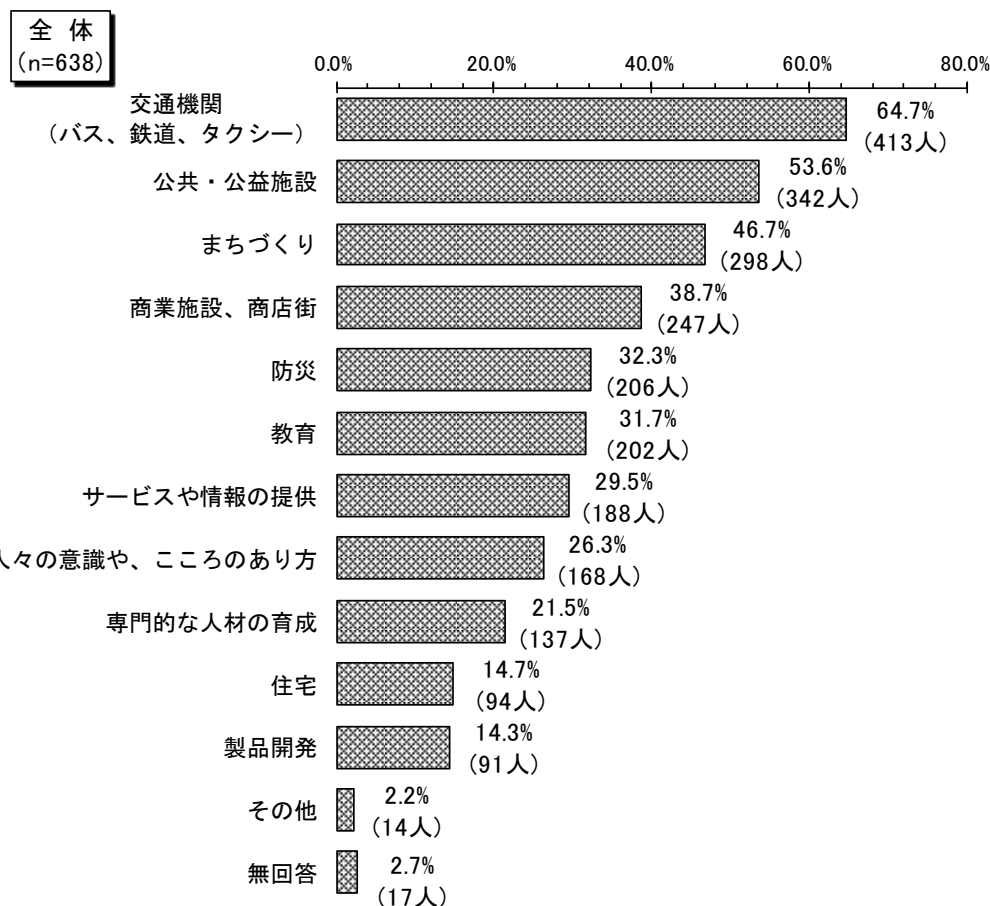


ユニバーサルデザインという言葉について、「言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない」(35.6%)の割合が最も多く、4割弱となっている。以下、「言葉自体知らない」(27.3%)、「言葉を覚えており、考え方や意味を少し知っている」(21.3%)、「言葉を覚えており、考え方や意味もよく知っている」(15.0%)となっている。

## (2) 導入が必要なもの

問10 あなたが、県内で、ユニバーサルデザインの考え方を導入することが必要だと考えるのはどれですか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



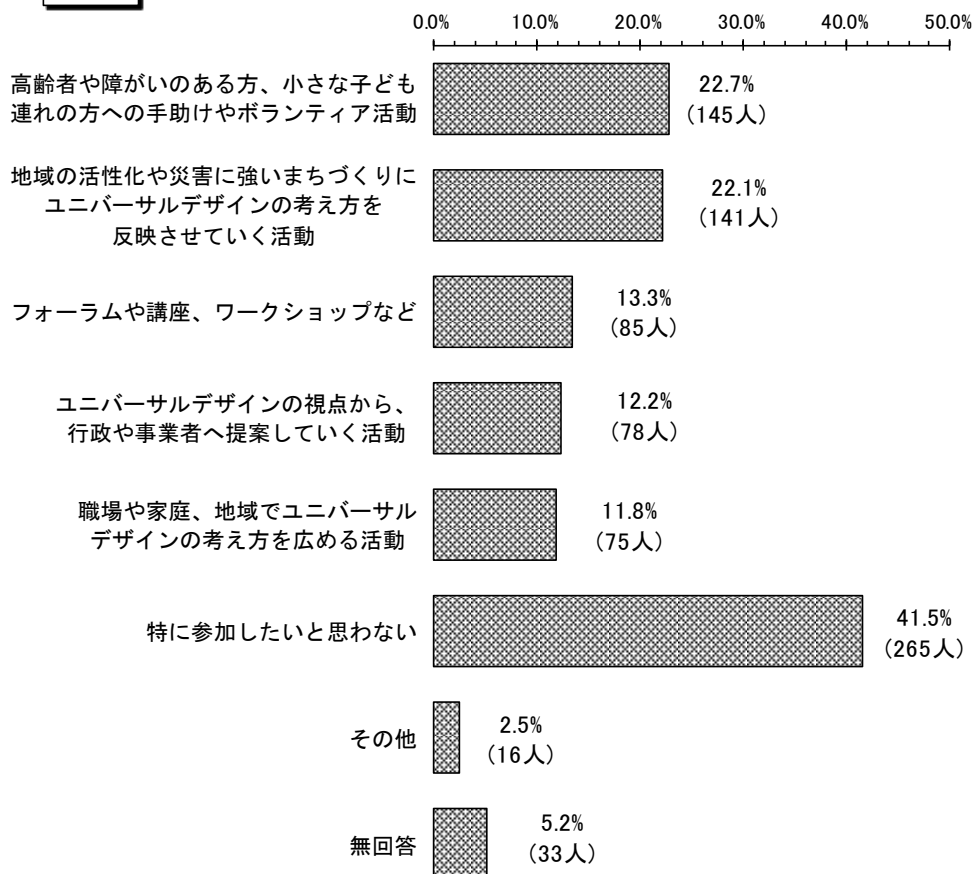
ユニバーサルデザインの考え方の導入が必要なものとしては、「交通機関 (バス、鉄道、タクシー)」(64.7%) の割合が最も多く、6割台となっている。以下、「公共・公益施設」(53.6%) が5割台、「まちづくり」(46.7%) が4割台、「商業施設、商店街」(38.7%)、「防災」(32.3%)、「教育」(31.7%) が3割台、「サービスや情報の提供」(29.5%)、「人々の意識や、こころのあり方」(26.3%)、「専門的な人材の育成」(21.5%) が2割台となっている。

### (3) 参加したい活動

問11 あなたは、ユニバーサルデザインに関する活動で、参加したいものがありますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体  
(n=638)



ユニバーサルデザインに関する活動で参加したいものとしては、「高齢者や障がいのある方、小さな子ども連れの方への手助けやボランティア活動」(22.7%)、「地域の活性化や災害に強いまちづくりにユニバーサルデザインの考え方を反映させていく活動」(22.1%)が2割台と高くなっている。以下、「フォーラムや講座、ワークショップなど」(13.3%)、「ユニバーサルデザインの視点から、行政や事業者へ提案していく活動」(12.2%)、「職場や家庭、地域でユニバーサルデザインの考え方を広める活動」(11.8%)が1割台となっている。

一方、「特に参加したいと思わない」(41.5%)の割合は、約4割となっている。